

2024 年度事業報告

2024 年度は、パリ 2024 パラリンピックという世界最高峰の舞台に臨む節目の年となり、本連盟としても大きな飛躍と挑戦の 1 年でした。パラリンピックでは選手たちが全力を尽くして戦い、瀬立モニカ選手の 6 位入賞をはじめ、競技力の向上が実を結ぶ成果がありました。一方で、1 名が大会を棄権したことは、今後の強化体制と方策の整備という新たな課題も示しました。

中長期計画のもと、普及・強化・人材育成・医科学サポート・ガバナンスの各分野で具体的な成果を挙げました。体験会や講習会の全国展開、P.UNITED などの外部連携を通じた認知拡大、選手と支援者が共に歩む体制づくりが進みました。特に「水の上は究極のバリアフリー」という理念のもと、障がいの有無を超えたインクルーシブな社会づくりに貢献する取り組みは、多くの地域と関係者に支えられ、広がりを見せています。

また、理事会運営や規程整備、協賛企業の獲得、JADA 加盟といった組織基盤の強化も進み、2028 ロサンゼルスオリンピック・パラリンピック後も見据えた持続可能な運営体制の土台が築かれました。

そして本年、連盟創設者であり日本パラカヌーを牽引するだけでなく、国際的にも我が国の活動とウォータースポーツの楽しさを発信された初代会長・吉田義朗氏が 2024 年度日本パラスポーツ協会功労章を受章されました。パラカヌーの歴史でも画期的なことであり、長年のご功績に深く感謝するとともに、その志を継ぎ、さらなる発展を目指してまいります。

1. 理事会

- 定例理事会 計 11 回 開催
- 臨時理事会 計 8 回 開催

<主な議題>

- ・ 法人名の変更に関する事項
- ・ 事業運営に関する事項（事業計画・予算、組織体制・運営、人事、規程改定等）
- ・ パリ 2024 パラリンピック競技大会日本代表選手の選考及び各種サポートに関する事項 他

2. 委員長ミーティングの開催

- 委員長ミーティングを毎月第一水曜日 20 時からオンラインで開催し、各委員会間の情報共有を図った。

1) 各委員会報告

【普及委員会】

◆パラカヌー体験会

障がいの種類、程度に関係なく、障がい者が安全にパラカヌーを楽しめる機会を提供する。
障がい者も健常者と共にパラカヌー体験会を通し、その感動や魅力を共有するインクルーシブ

ブな社会を構築する。また、パラカヌー愛好者(ファン)やパラカヌー競技者の発掘・増加など、パラカヌーができる環境整備を図り、障がいのあるなしに関わらず誰もがパラカヌーを楽しめる地域環境づくりにつなげる。を主目的とし地域連携によるパラカヌー体験会実施や委託事業の全面協力を主とした普及活動で、地域のパラカヌー環境構築の事業を展開した。

また、SDGs 取り組みとして、実施場所のクリーンアップ活動やパラカヌー体験者を障がい者に限定しないD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)を目標としたパラカヌー体験会を開催した。

- ・パラカヌー体験会を全 6 か所で実施（東京都江戸川区新左近川親水公園、千葉県佐倉市、東京都カヌー・スラロームセンター、石川県小松市、香川県府中湖、鹿児島県伊佐市、）
- ・ノエビアグリーン財団助成事業によるユニバーサルカヌー体験会を実施
- ・第 7 回全国 200m 競漕(石川県小松市)
- ・チャレスポ TOKYO ブース出展 協力
- ・東京都選手発掘事業全 2 回 協力
- ・TAMA 祭パラカヌー体験教室(プール) 協力（東京都多摩障害者スポーツセンター）
- ・東京都多摩障害者スポーツセンター パラカヌー体験教室の講師派遣
- ・P.UNITED 横浜ランドマーク会場のブース出展 協力

◆人材育成事業 パラカヌーサポーター講習会

- ・パラカヌーサポーター講習会を全国 7 か所で実施（鳥取県船上山、京都府京丹後市、東京都江戸川区、東京都カヌー・スラロームセンター、石川県小松市、千葉県佐倉市、福岡県福岡市）受講者合計 55 名（新規受講 49 名、再受講 6 名）のパラカヌーサポーター講習会を開催した。

◆総括

本連盟の発足時設立宣言に基づき、当初の理念を継承しつつ、常に新しいアイデアを取り入れパラカヌーの普及活動を行って来た。障がい者へパラカヌーの魅力を伝えると共に、パラリンピックの正式種目であるパラカヌー競技者、スタッフと協力しながら普及と競技の両輪が前進する活動を展開した。

特に、人材育成事業として連盟公式パラカヌーサポーター講習会が定着化したことで、各地域におけるパラカヌー環境整備、新規のパラカヌーサポーター講習会を提案することによって、各自治体のパラスポーツ課題を共有できるようになった。障がい者への理解及び合理的配慮について、パラカヌーを通じて障がい者と健常者が共に協力し合い、支え合い、インクルーシブな社会発信をすることができた。パラスポーツの中でもウォーターパラスポーツの価値を共通認識できる機会となった。

このパラカヌーサポーター講習会を受講したパラカヌーサポーターが、地域の自治体と連携しパラカヌー体験会を企画運営することで、地域におけるパラカヌー体験機会、環境づくりを推進させることができた。

普及委員会の『障がいのあるなしに関係なく共にパラカヌーを楽しむ』をテーマを掲げ、携わる普及委員や自治体関係者と共通認識をもって普及活動ができ、本連盟の理念及び普及活動方針への理解も進み全国に支援者の拡大及び認知拡大につなげることができた。

【技術委員会】

◆選手強化活動事業

- ・アジアパラカヌー選手権大会 海の森水上競技場
2024 年 4 月 14 日～4 月 21 日(7 泊 8 日)
- ・世界選手権大会兼パリ 2024 パラリンピック最終予選会 ハンガリー・セゲド
2024 年 5 月 4 日～5 月 14 日(10 泊 11 日)

- ・第1回パリ大会事前強化合宿 菱刈カヌー競技場
2024年6月3日～6月10日(7泊8日)
- ・第2回パリ大会強化合宿 菱刈カヌー競技場
2024年7月1日～7月11日(10泊11日)
- ・第3回パリ大会事前合宿 木場潟カヌー競技場
2024年8月10日～8月20日(10泊11日)
- ・第4回日本代表選手強化合宿 菱刈カヌー競技場
2024年12月6日～12月13日(7泊8日)

◆次世代アスリート育成強化事業

- ・第1回次世代育成合宿 石川県小松市木場潟カヌー競技場
2024年8月9日～8月11日(2泊3日)
- ・第2回次世代育成合宿 菱刈カヌー競技場
2024年12月6日～12月8日(2泊3日)

◆選手強化体制整備事業

- ・総合大会支援 パリ2024パラリンピック競技大会村外スタッフ派遣
2024年9月2日～9月10日(8泊9日)
- ・大会視察 日本選手権大会視察 木場潟カヌー競技場
2024年9月10日～9月15日(5泊6日)
- ・大会視察 日本代表選手選考会視察 府中湖カヌー競技場
2025年3月24日～3月29日(5泊6日)
- ・JPC等会議出席
協働コンサルテーション2回目 NTCウエスト 2025年1月10日
クラス分けヒアリング JPSA 2024年9月26日
HPD研修会 NTCイースト 2024年10月25日
女性スポーツ委員会セミナー JPSA 2025年1月16日
JPCギャザリング NTCウエスト 2025年2月28日
その他 メディカルチェック 通年
艇庫賃借料 土浦ラクスアリーナ 通年
JADA 2024年度アンチ・ドーピング教育会議 JSOS 2024年11月6日

◆競技成績

- ・2024 Canoe Sprint & Paracanoe Asian Championships
2024年4月18日～4月21日
MKL1 高木裕太 2位
MKL2 辰己博実 2位
MKL3 今井航一 4位
MVL1 関根徹哉 3位
MVL2 加藤隆典 3位
MVL3 今井航一 2位 ・ MVL3 辰己博実 3位
WKL3 加治良美 1位
WVL2 小松沙季 2位
- ・2024 ICF PARACANOE WORLD CHAMPIONSHIPS
2024年5月9日～5月11日

MKL1	高木裕太	SF6 位	
MKL2	辰己博実	BF8 位	
MVL1	関根徹哉	AF7 位	高木裕太 AF3 位 銅メダル
MVL2	加藤隆典	BF7 位	
MVL3	辰己博実	SF9 着	今井航一 BF8 位
WKL1	瀬立モニカ	AF9 位	
WKL2	宮嶋志帆	SF8 位	
WKL3	加治良美	BF4 位	
WVL2	小松沙季	AF9 位	
WVL3	宮嶋志帆	SF9 位	

・パリ 2024 パリンピック競技大会

2024 年 8 月 28 日～9 月 8 日

MKL1	高木裕太	10 位
WKL1	瀬立モニカ	6 位
WKL2	宮嶋志帆	10 位
WVL2	小松沙季	DNS
WVL3	宮嶋志帆	12 位

【医科学委員会】

◆医療サポート

パリパラリンピック競技大会の代表候補選手 8 名に対して、大会参加に際して日本パラスポーツ協会が義務付けるメディカルチェックにおいて、健康調査結果リスト、メディカルチェック部会報告書、使用薬物調査結果報告書を作成して報告を行った。

使用薬物調査はアンチドーピング委員会におけるスポーツファーマシストの監修で確認を行った。

パリパラリンピック競技大会の代表候補選手以外の強化指定選手 3 名についても、同様なメディカルチェックにおいて健康調査結果リスト、メディカルチェック部会報告書作成して報告を行った（～2025 年 1 月）。

これらの結果は、栄養士と共有して選手へ指導を行った。

クラス分け委員会と共同して、選手の国内・国外大会参加に必要な診断書（MDF：Medical Diagnostics Form）の作成を行った。その他、選手から個別で相談があった際は対応を行った。

◆栄養サポート

・合宿での栄養サポート研修会 令和 6 年 4 月 16 日 選手 10 名 スタッフ 10 名

・選手への個別栄養指導 令和 6 年 5 月 24 日（金）19：30～20：00

令和 6 年 5 月 31 日（金）19：30～20：00

論文（古舘 伸郎 ほか、パラカヌー選手における朝食及び補食を活用したエネルギー付加による増量事例、日本スポーツ栄養研究誌、2024）

◆心理サポート

・選手の個別サポート

第 7 回全国 200 競漕（令和 6 年 8 月 11 日）普及委員会が企画したアウトリーチ活動を

金沢星稜大学の学生とともに、対話形式でドーピングに関する理解を深めるよう活動

◆今後の検討事項

・各委員会との情報共有（特にトレーナー委員会、アンチドーピング委員会、クラス分け委員会）

- ・体調やケガの状態の変化や治療内容の変化があった場合は、選手から情報を共有してもらえるような体制を構築する。

【クラス分け委員会】

◆事業項目

1.クラス分け委員会ミーティング

- ・第1回クラス分け委員会ミーティング 6月11日 21:00～22:30
 - ①昨年度日本代表選手選考会および世界選手権における業務報告と課題共有
 - ②2024年度クラス分け委員会活動計画（最終）の共有
 - ③クラス分け委員の活動継続などのヒアリング
- ・第2回クラス分け委員会ミーティング 8月26日 21:00～22:30
 - ①日本選手権大会におけるクラス分けについて情報共有、派遣委員検討
 - ②発掘事業へのクラス分け委員派遣の検討
 - ③「パラカヌー国内クラス分け規則」の改定を検討
- ・第3回クラス分け委員会ミーティング 10月7日 21:00～22:30
 - ①日本選手権大会におけるクラス分けの業務報告と課題共有
 - ②JPCクラス分け委員会からのヒアリングの報告
 - ③日本代表選手選考会におけるクラス分け・認定試験について情報共有、派遣委員検討
 - ④「パラカヌー国内クラス分け規則」の改定を検討
- ・第4回クラス分け委員会ミーティング 11月19日 21:00～21:30
 - ①次年度クラス分け委員の事業計画（第1案）作成
 - ②「パラカヌー国内クラス分け規則」の改定を検討
- ・第5回クラス分け委員会ミーティング 2月20日 21:00～22:30
 - ①日本代表選手選考会における派遣委員確定、クラス分け対象選手の共有
 - ②次年度の委員長、副委員長選出、クラス分け委員の活動継続などのヒアリング
 - ③次年度クラス分け委員の事業計画（第2案）作成

2.競技会内国内クラス分け

- ・9月13-15日
 - 【事業名】2024年日本パラカヌー選手権大会におけるクラス分け業務 石川県木場潟
 - 【業務】現地での競技会内クラス分け
 - 【派遣委員】川崎、平良、林、今井、小島、四登、南原
 - 【対象者】エントリー20名、その内新規クラス分け1名（1種目）、再クラス分け6名（7種目）
 - ※「JPC国内クラス分け支援事業」の助成金を活用し、クラス分け委員・準クラス分け委員を派遣
- ・3月27-29日
 - 【事業名】2025パラカヌー日本代表選手選考会におけるクラス分け業務 香川県府中湖
 - 【業務】現地での競技会内クラス分けおよび認定試験
 - 【派遣委員】川崎、今井、四登
 - 【対象者】エントリー21名、再クラス分け5名（6種目）
 - 【内容】認定試験の結果、1名が準クラス分け委員から国内クラス分け委員に認定。

3.JPCクラス分けマネージャーNFヒアリング、クラス分け担当者向け分科会（JPC Gathering 2025）

- ・9月26日（木）13:00-15:00 JPCクラス分け情報研究・拠点（川崎）
- ・2月28日（木）10:00-18:00 味の素ナショナルトレーニングセンターウエスト（川崎、今井）

4.JPC クラス分け従事者向け研修会

- ・10月31日(木)、11月6日(水) 18:00-20:00 Web
- ・1月31日(金) 18:00-18:45 Web

5.国内クラス分け講義、教育

- ・12月14-15日 パラカヌーコーチ講習会、クラス分け担当講師(川崎)

6.国際競技大会へのクラス分け帯同、事前提出書類提出

- ・2024 ICF WORLD CHAMPIONSHIPS SZEGED (現地:川崎、国内:今井)
国内選手9名のうち、1名(1種目)が国際クラス分け対象
競技クラスの変更(VL2→VL1)と当該競技クラスで銅メダル獲得
- ・2024 Pari paralympic (国内:川崎、今井)
国内選手4名(5種目)のうち、3名(4種目)が国際クラス分け対象

7.選手発掘事業参加

- ・J-STAR 全地区のエントリー一覧から対象者をチェック(川崎、今井)
- ・J-STAR 基礎測定派遣(広島:今井、大阪:川崎、佐賀:前田、徳島:今井・池田)
- ・リモートを併用した専門測定(川崎、今井)
- ・東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム 9月28日(小島)、11月30日(林)
- ・チャレスポ TOKYO 参加 2月11日(林)

◆総括

2ヶ月に1回を目処にミーティングを継続し、委員会内で情報共有および事業報告を行った。また、2024年度から「パラカヌー国内クラス分け規則」の改定にも着手した。パラカヌーは、国内クラス分け規則を公表していた点でJPCより一定の評価を受けているが、今後も最新の国際知見を国内に落とし込むように務め、国内規則の見直しと効果的な運用に取り組む。

競技会内国内クラス分けでは、クラス分けや競技会をより安全に遂行するために、国内選手の状況やレスキュー体制などの情報は事前に競技運営委員会とも共有する必要性を強く感じ、ミーティング開催に至った。また、日本選手権では、「JPC国内クラス分け支援事業」の助成金を活用し、競技役員としての派遣2名に加えて、クラス分け委員・準クラス分け委員を追加で派遣し、スキルアップの場としても大変有用であった。一方で、新規選手は年間1名であり、クラス分け対象選手も今後は減少することが予想され、課題も浮き彫りになった。

JPCからのヒアリング、研修会が広く開催されてきた。一方で、2024年度はパラカヌーNF内では、コーチ養成講習会で座学講習が1枠あったものの、選手および支援者(スタッフ、コーチなど)を対象にクラス分け教育・講義は開催されなかった。JPCが勤めるように国内競技関係者がクラス分けについての知識を深めることは、ドーピング対応同様に必須であり、今後もNF内でこのような場の開催を要望していく。

国際競技会においては、2023年に競技クラスが変更された選手に対して、国内で再検討し、国内クラス分けの結果を裏付けるための医学的情報を準備した上で、国際クラス分けに臨んだ。その結果、2024年の世界選手権において再度競技クラスが変更され、銅メダル獲得に至った。今回のケースでは、事前に対策を行なっていなかったこともあり、2競技会にわたり変更された競技クラスでレースに出場した。今後は、国際クラス分け対象者は国内で事前準備を行い、必要な医学的情報、検討項目を帯同スタッフと共有しつつ、プロテストも含めた対策を立てておくことの必要性を痛感した。

最後に、2024年度は新規クラス分け委員は養成せず、各委員のスキルアップ・ステップアップを図ることで事業計画を立て、新たに1名が準国内クラス分け委員から国内クラス分け委員に認定された。国内選手の急激な増加が見込めない現状では、クラス分け委員の新たな増員は行わず、スキルアップ・

ステップアップを優先する。競技会内国内クラス分けに限らず、選手発掘や普及活動に委員を派遣し、業務に従事しつつパラカヌーの理解を深めていくことは委員会としても継続していく。

【トレーナー委員会】

◆強化合宿・大会帯同

・フィジカルコンディショニング・ケア、トレーニングサポート、乗艇補助、測定など

- ①2024 アジア選手権大会 @東京海の森競技場、JISS（4月13日～4月20日）
※田中・前田 帯同。
- ②2024 世界選手権 ハンガリー セグド（5月6～16日 前田 帯同）。
- ③第1回パリ事前合宿 鹿児島県菱刈カヌー競技場（6月3～13日 田中 帯同）
- ④第2回パリ事前合宿 鹿児島県菱刈カヌー競技場（7月1～10日 田中・前田 帯同）
- ⑤第3回パリ事前合宿・次世代育成合宿 木場潟 NTC（8月9日～8月20日 ※田中・出田・前田 帯同）
- ⑥パリ2024 パラリンピック競技大会 パリ サン・ドニ（9月2～10日 ※田中・出田・前田 帯同）
- ⑦クロストレーニング事業 鹿児島県菱刈カヌー競技場（11月19～27日 ※田中・前田 帯同）
- ⑧日韓合同合宿 鹿児島県菱刈カヌー競技場（12月6～13日 ※田中・前田 帯同）

◆講習会の開催

- ①次世代育成選手対象 基礎知識 木場潟 NTC（8月10日 熱中症・筋肉・トレーニングの種類 ※田中・出田）
- ②コーチ講習会 鹿児島県菱刈カヌー競技場（12月15～16日 コンディショニングについて ※田中）
- ③岐阜県強化合宿 岐阜県岐阜市友愛プール（12月18日 体調管理と活動報告 ※田中）

◆委員会内ミーティング

- ①第1回ミーティングリモート（ZOOM）
5月22日(水) 20時00分～21時00分 参加者（11名）
・年間スケジュールの共有、アジア選手権、世界選手権の結果共有
・委員会内研修会（愛知県アスレティックトレーナー連絡協議会 発表報告 講師：副委員長 出田氏）
- ②第2回ミーティングリモート（ZOOM）
10月23日(水) 20時00分～21時00分 参加者（6名）
・第1～3回パリ事前合宿、次世代育成合宿
・パリ2024パラリンピック競技大会、日本選手権の事業報告
・上半期スケジュールの共有
- ③第3回ミーティングリモート（ZOOM）
令和7年2月17日(月) 20時00分～21時00分 参加者（8名）
・クロストレーニング、日韓合同合宿の事業報告
・2025年間事業計画案の取りまとめ
- ④第4回ミーティングリモート（ZOOM）
令和7年3月15日(金) 20時00分 参加者（8名）

- ・2025 年度事業計画について
- ・2025 年度 JPCA トレーナー部会役員について

◆総括

2024 年度はパリパラリンピックをはじめとする国際大会で活動する機会が多く、これらのトレーナー活動を通して新たな課題が見つかった年となった。具体的には、渡航に伴う対策（EAP 作成や選手への事前教育）や W-Up・フィジカルトレーニングの見直しなどが挙げられる。これらの課題を 1 つずつ改善し、競技レベルを国際水準へ引き上げるサポートへとつなげていきたい。一方で、トレーナー委員会が掲げる『2028 年までに各エリアで選手をサポートできるトレーナーを育成する』といった目標を達成するために、今年度成し得なかった対面でのトレーナー研修や選手の競技サポートが実践できる機会を次年度は提供できるようにしていきたい。

【女性スポーツ委員会】

本年度 JPC 女性スポーツ委員会による個別相談、支援プログラムへの申請希望者はなかったが、JPC との連絡の流れも定着し、医科学委員会との情報共有もできるようになった。また、女性アスリートが相談しやすい環境づくり、サポート体制の構築にむけ女性アスリートエキスパート検定、女性スポーツサポート研修など積極的に参加し知見を深め万全のサポート体制がとれるよう準備をすすめている。

【アスリート委員会】

◆委員会ミーティング及び打ち合わせ（年 6 回オンライン開催）

①4 月 8 日 第 1 回アスリート委員会

- ・2024 年度委員会の開催回数と時期の検討
- ・委員会欠席時の委任状について
- ・代表合宿等における陸上でのウォーミングアップメニューの共有依頼について
- ・議事録作成について

②8 月 8 日 第 2 回アスリート委員会

- ・選考方針についての確認
- ・意向確認書について

③9 月 24 日 第 3 回アスリート委員会

- ・韓国との合同合宿における日本選手側の「おもてなし」について

④11 月 14 日 第 4 回アスリート委員会

- ・来年度の計画について
- ・普及委員会と連携して進める拠点開拓、選手発掘、サポーター確保について

⑤12 月 26 日 クラス分け委員会との国内クラス分け規則の確認のミーティング

⑥2 月 19 日 第 5 回アスリート委員会

- ・委員長、副委員長選任方法の確認
- ・2025 年度代表ウェアについて

◆その他の連盟関連活動並びに JPC 及び JPC アスリート委員会関連事項、協力依頼対応等

①普及委員会事業協力依頼事項の共有

- ・江戸川区での事業についての派遣依頼)

②アジア選手権大会の観戦案内の共有

③WADA のアスリート向けオンライン説明会の案内の共有

- ④パリパラリンピック内定者のコメント、プロフ紹介について拡散周知の協力依頼
- ⑤パリ内定選手向け合宿への参加についての情報共有
- ⑥ホームページの組織図の更新と委員会名簿公開のお知らせと確認依頼
- ⑦団体名称の変更についての周知依頼
- ⑧JPC 研修会（SNS 研修）について視聴依頼
- ⑨日本代表選手団の発表についてのお知らせ
- ⑩JPC アスリート委員会より意見のシェア依頼
 - ・アスリートに向けた誹謗中傷や SNS の利用について
- ⑪パリ緊急ミーティング議事録の共有
- ⑫アンチドーピング委員会より周知依頼
 - ・JADA 新規認定予定ドーピング検査員の実地研修について
 - ・アンチドーピング研修会のお知らせ
- ⑬日本財団パラスポーツサポートセンター主催のコンプライアンス研修会の案内の共有
- ⑭伊佐市での選手交流会&体験会の要項とチラシの共有
- ⑮アスリートキャリアチャレンジカンファレンスの案内の共有

◆総括

- ・韓国チームとの合同合宿を行うにあたって、「おもてなし」について事務局と技術委員会に提案を実施。伊佐市での交流イベント以外はあくまで強化に特化した内容ということから協力の余地が限られていた。立案段階で関与できていれば、より多くの協力が可能だったと考える。
- ・1月16～17日に P. UNITED イベントである「Athlete CAMP」が行われ、選手3名が参加した。他競技の選手との交流を深められたほか、昨年が続いて（公社）日本モーターボート選手会の皆様とも交流を深めることができ、代表選手へのダウンジャケット寄贈につながった。
- ・次年度のユニフォーム支給形態やデザインについてアスリート委員会で意見を集約・反映させることができた。今後もアスリートの意見を反映させたユニフォーム作成を推進したい。

【アンチ・ドーピング委員会】

◆委員会の発足と定例運営

- ・公募により委員を選出。理事会の承認を経て発足。
- ・月1回のWEBミーティング（計12回）を開催し、情報共有を実施。

◆JADA 加盟

- ・事務局と協働し申請手続き・面談を実施。
- ・正式に日本パラカヌー連盟として JADA に加盟。

◆JADA 対応

- ・教育年間計画（2024年度）を作成し、年度末に報告書を提出。
- ・教育関連会議・研修への出席
 - 11月6日 アンチ・ドーピング教育担当者会議（本田、小島）
 - 12月18日 アンチ・ドーピングカンファレンス（磯部）

◆使用薬物調査（医科学委員会と協働）

- ・パリパラリンピック候補選手に対し、スポーツファーマシスト4名による使用薬物調査を実施。

◆規則・TUE 申請に関する相談対応

- ・ドーピング規則・禁止薬物に関する問い合わせを受け、スポーツファーマシスト4名で検討後に回答。
- ・主治医と連携し、TUE（治療使用特例）申請の支援も実施（1件対応）。

◆ドーピング検査報告の収集

- ・選手からの検査報告を収集。
- ・アンチ・ドーピング教育研修会で選手へ情報フィードバック。

◆アンチ・ドーピング教育研修会の実施（計 3 回）

- ①4月15日 日本代表選手・スタッフ対象
- ②10月11日 育成選手・スタッフ対象
- ③2025年3月9日～3月10日 2025年度日本代表選考会出場選手・スタッフ対象

◆アンチ・ドーピング啓発活動の実施

- ・8/11 第7回全国200m競漕の会場・木場潟カヌー競技場にてブース設置。
- ・アンチ・ドーピング啓発活動を磯部・今井の2名で担当。

◆JPC 関連対応

- ・2025年2月1日「令和6年度競技団体アンチ・ドーピング担当者連絡会議」（佐々木、磯部）
- ・2025年2月28日「JPC Gathering 2025」（磯部）

2) その他（事務局担当業務等）

2024年度において、事務局では、広報活動の強化と組織基盤の整備を柱に、各施策を計画通りに実施した。

広報事業では、公式 HP および Facebook、X（旧 Twitter）といった SNS を活用し、選手と連携した情報発信を行った。

特に選手個人のアカウントとの連動を強化し、競技会情報や活動の様子をタイムリーに発信したことで、フォロワー数の着実な増加につながった。

また、選手向けには SNS 活用に関するアドバイスを提供し、選手自らが広報の担い手となる体制づくりを推進した。加えて、協賛企業のロゴ露出については、サポーター会員や大会関係者への広報物等において徹底を図り、協会としての価値向上に努めた。

基盤整備事業では、協賛企業の獲得活動を積極的に展開し、残念ながら新規契約には至らなかったものの、複数の企業との接点を得て、今後の協業に向けた有望な関係構築の種まきを行うことができた。また、他の8団体と連携する P.UNITED プロジェクトを通じ、スポーツ界全体としての価値提案を行い、将来的な収益基盤の拡大に向けた下地づくりに寄与した。

業務体制の見直しでは、会議のリモート化を進めたことで、地理的制約にとらわれない柔軟かつ効率的な意思決定が可能となり、日常的な業務運営の円滑化を実現した。さらに、パラリンピックサポートセンターのシェアードサービスの全面活用により、経理・労務・法務といった管理業務の外部委託を進め、事務局業務の効率化と運営基盤の透明性向上に取り組んだ。

今後も、広報と基盤整備の両面から、パラカヌー競技の認知度向上と組織の持続的発展を目指し、引き続き戦略的な取り組みを推進していく。

以上